

「N響」、13年ぶり 沖縄公演



チャイコフスキーの交響曲や沖縄民謡で迫力ある演奏を聞かせるNHK交響楽団＝14日、沖縄市民会館（NHK交響楽団沖縄公演実行委員会提供）

「ていんさぐぬ花」も



復帰40年を記念したNHK交響楽団の沖縄公演（同実行委員会主催）が14日、沖縄市民会館であった。沖縄公演は13年ぶり。1962年の初来沖時に演奏したチャイコフスキーの交響曲第

4番を壮大に演奏し、メドレー形式に編曲した沖縄民謡も聞かせた。会場を埋めた約1500人が国際的に高い評価を得る「N響」の音色を堪能した。

チャイコフスキー「バイオリン協奏曲」はソリストの渡辺玲子さん（バイオリン奏者）が奏でる情感豊かな旋律と巧みな独奏が来場者を引き込んだ。「ていんさぐぬ花」などでは合唱で地元の約100人の中・高校生と共演。歌声と迫力あるオーケストラ演奏が調和した。指揮は広上淳一さんが務めた。合唱に参加した小椋高3年の志岐原卓稀さん（18）は「憧れのN響と共演でき、一生の思い出になる」、美里中3年の外間すなおさん（15）は「この経験を、吹奏楽に生かしたい」と話した。